発行日
2020年12月20日

アジアの女性と子どもネットワーク

AWC通信

持続可能な社会を

マリ・クリスティーヌ

コロナウィルスの猛威が社会全体を覆い尽くしています。この一年私たちは活動に様々な制限を受けてしまいました。毎年必ずタイに出かけ、　これまでの協力先を訪問すると同時に支援を必要としている方々と会い、状況を確認しながら活動を続けていましたが、今年は渡航が不可能になりました。しかし幸いなことに、これまでの25年間に培ったネットワークを活かしながら支援活動を続けることが出来ました。

タイのバナナは甘くておいしい

3月に、ウィルスの影響が心配でタイに確認の連絡をしたところ、ロックダウン中で外出禁止令が出ており、チェンマイの町は観光客もなく閑散としているという事でした。そんな厳しい環境の下、昨年お世話になったパーツキャオ村は、村長の判断で1月末から外部の人の入村を禁じてコロナウィルスとは無縁で安全に静かに暮らしているとのこと。もともと自給自足の生活をしているので日々の暮らしには困ることは何もないとの話を聞き、改めて里山の暮らしの素晴らしさを感じました。そして、今こそSDGsと真剣に向き合わなければならないのではないかという思いを強くしました。感染症への対策をターゲットに掲げている目標3はもちろんのこと、コロナ禍で広がっている貧困、格差の拡大、マスクやデリバリーなどによるプラスチックごみの増加による気候変動や海洋汚染など、今までの暮らしを続けていると、地球は持続不可能になるという脅威が本当に迫ってきていると感じます。自然の恵みを私たちが受け続けるには、地球が3個必要になると言われていることも現実味を帯びて感じられます。

美しい村の風景

今年の７月、国連は「持続可能な開発目標報告2020」を発表しました。各国政府が取り組むSDGsの達成状況を17の目標ごとに整理、報告するものです。オンラインで実施されたこの会議では、今回は特に新型コロナウィルス感染症のパンデミックがSDGsの目標達成に及ぼした影響に注目が集まったようです。会議の報告書を読み、私は「生物多様性」に関する項目に大いに共感しました。「多様な生物が息づく森林環境などの破壊を伴う土地利用の変化が、新興感染症と呼ばれる新しい感染症をもたらし、世界の公衆衛生と経済を脅かしている。特に深刻なのは、新興感染症の75%を占めるといわれる「動物由来感染症」の発症で、実際に生息地の森などが破壊された結果、野生動物と人間が接触する機会が増え、こうした病気が20世紀以降、数多く発症している。SARSやエボラ出血熱などはその最も顕著な例であり、新型コロナウィルス感染症も、その一つであると考えられている。さらに野生動物の密猟や密輸などの犯罪行為も、こうした感染症を広げるリスクがある」という報告です。生態系の破壊に大きく関わっているのは温室効果ガスによる地球温暖化です。

散策の後はキュウリで水分補給

改めてタイの山の中の里山の暮らしを思い出しました。昔からの伝統を守り自然の恵みを大切にし、必要なエネルギー等も最小限にして分け合い、お互いに助け合って暮らしている彼らの生活こそ、持続可能な循環型の社会です。彼らをお手本に、私たちの暮らしをしっかり見直して行かなくてはならないと思います。

【参考文献】（新型コロナウイルス感染症とSDGsの目標達成　https://www.wwf.or.jp/activities/opinion/4383.html　）

おなかいっぱいプロジェクト

タイでも2月から多方面でコロナに関する問題が出始めました。ロックダウンで生活必需品の店以外は閉店し、外国人の入国も制限されました。観光客が入ってこなくなったため、観光客相手の仕事（手工芸品の販売、観光客の写真撮影、ゴミ処理等）をしているスラムの住人は収入がなくなってしまいました。

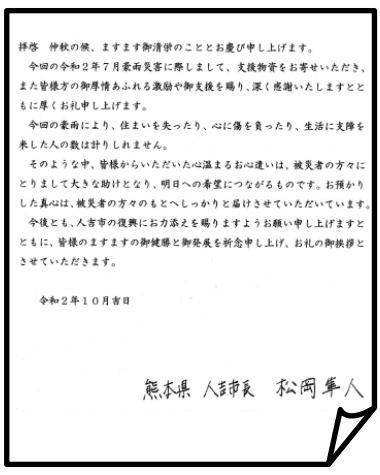
一部の人たちは子ども達を連れて山の村に帰りましたが、昨年来の数十年ぶりの大干ばつで野菜が育たず、再び街に戻らざるを得なくなりました。必死に日雇いなどの仕事を探しましたが、コロナ禍ではそれも難しい上に、政府からの特別生活補助金の申請も無国籍のためにできない人々が多く、食料の調達もままならなくなりました。日ごろストリートチルドレンの朝食支援などを行っているドロップインセンターも閉鎖を余儀なくされてしまいました。

私たちはこの様子を知り、スラムの人々に生活に必要な食糧等を届けるために、3月30日にチェンマイのアーサーパッタナーデック財団に送金し、4月1日にはスラムの中でも特に困窮している家庭に食糧の配布をしていただきました。届けたものは、米、麺、春雨、卵、油、ナンプラー、食パン、魚の缶詰、ロングライフ牛乳の他、手洗いのための石けん、シャンプー、子どものための栄養補助飲料などで、大変喜ばれました。

熊本豪雨災害支援

熊本県人吉市は2020年7月3日～4日にかけて豪雨被害にみまわれました。マリ代表が教えている東京女子大学のゼミ生が人吉市に在住で、本人の家は何とか被害を免れたましたが、周りの道路が冠水して断水や停電などで大変な状況となりました。

AWCから支援を申し出て、必要とされている品物リストを受け取り、7月14日に女性用下着、靴下、作業用の手袋、虫よけ、化粧品などの支援品を送りました。化粧品は支援品としてすぐに頭に思い浮かばないものですが、被災された女性のエンパワメントには大変有効です。㈱ファランドール様からの寄付品です。コロナの影響でボランティアの受け入れも進まない中、復興に後れを生じていると聞いています。被災された方々が、できるだけ早く元の暮らしに戻ることができるように願っています。



拝啓　仲秋の候、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。
今回の令和２年７月豪雨災害に際しまして、支援物資をお寄せいただき、また皆様方の御厚情あふれる激励や御支援を賜り、深く感謝いたしますとともに厚くお礼申し上げます。
今回の豪雨により、住まいを失ったり、心に傷を負ったり、生活に支障を来した人の数は計りしれません。
そのような中、皆様からいただいた心温まるお心遣いは、被災者の方々にとりまして大きな助けとなり、明日への希望につながるものです。お預かりした真心は、被災者の方々のもとへしっかりと届けさせていただいています。
今後とも、人吉市の復興にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のますますの御健勝と御発展を祈念申し上げ、お礼の御挨拶とさせていただきます。
令和２年１０月吉日
熊本県　人吉市長　松岡隼人

支援品

東日本大震災復興支援

東日本大震災の復興支援で協力を続けている、陸前高田市のおやこの広場「きらりんきっず」は、長い間仮設の建物で活動を続けていましたが、今年1月に新しい施設が完成し引っ越しをしました。新しい施設は木材がふんだんに使われ、明るい日の光が差すとても気持ちの良いところです。

津波で施設が流された直後から、避難所の高田第一中学校の図書館を借り受けて、被災した親子の支援を行い、その後も子育てを孤立させないように様々な努力を続けてこられたスタッフの方々は、とても喜んでいらっしゃいます。

施設はできましたが、子どもたちが遊ぶおもちゃが足りないという話を聞き、「日本おもちゃ図書館財団」様に連絡をしておもちゃの支援をお願いしました。大好きなあんぱんまんやパトカーなど、たくさんのおもちゃに子ども達は大喜びだそうです。

手作りの素敵なお礼状が届きました

子どもたちの植林活動　（おたがいさまプロジェクト）

今年は乾季に北タイのあちこちで山火事が発生し、山は大きな痛手を受けました。昨年来の大干ばつに加えて、換金目的の伐採やプランテーション開発などが続いたことで山が痩せて水を十分に貯める力がなくなってきています。

山を元気に蘇らせるために、おたがいさまプロジェクトのリーダーのギー先生の指導の下、25人の青年たちがチェンライの山の上のフアファーイ村に、ワイルドアーモンドの木の苗200本を植樹しました。木が育てばアーモンドに似たナッツを収穫することができ、換金作物として村の収入になります。

山地民の暮らしは山や森と一体になっています。「自分の土地でかどうかではなく、皆がいつまでも暮らしていくためには、助け合うという気持ちが大切だ」とギー先生は仰っています。数年前におたがいさまプロジェクトからの奨学金を 受け、今は独り立ちしているEくんも植林に駆けつけてくれました。自立した青年たちは、中には薬物に手を出してしまった子もいますが、複雑な家庭や様々な問題から離れて良い友人と出会い前向きになれたなど、概ね良い方向に向かっています。

植林を終えてホッと一息

8月初め、タイでは記録的な豪雨が あり、チェンマイとチェンライ間の道路が冠水して通行止めになったというニュースが飛び込んできました。保水力を失った山はがけ崩れなどを起こしやすいので心配しましたが、とりあえずは無事でした。子どもたちが植えた木が育つと、換金作物が増える上に、保水力を持った山になるので楽しみです。　（AWCユースリーダー　原梓）

鉄砲水　（おたがいさまプロジェクト）

タイ北部で豪雨があり9月8日(火)の朝、チェンライ県ムアン郡メイヤオ地区の山の村で鉄砲水の大きな被害が出ました。ラフ族30世帯が住むアディー村では、10世帯の家が土砂のために全壊・半壊の状況で、家の中に泥が入り込み、人々は寝る場所もなく、親類や近所の家に身を寄せたり、外の東屋で野宿しなければならないという状況に陥ってしまいました。

この日の夕方、ギー先生からの緊急支援の依頼を受け、おたがいさまプロジェクトの支援金から布団と調理器具の購入をしていただき、AWCからの寄付として被災した家族に届けました。タイ山岳部の雨季は肌寒く、避難先の家にも余分な布団などはないため、寝具はとても喜ばれました。これだけスピーディに支援ができたのは、ギー先生と村人たちのネットワークがしっかり構築されていたからです。

翌日からはギー先生の教え子たちが丸一日かけて家の泥を掻き出す作業や、瓦礫の処理、炊き出しなどの手伝いをしています。若者たちの力は本当に素晴らしいです。政府関係者なども現場に入るほどの大災害でしたが、日本と違い避難所などはない中で、様々なNGOが入って支援をしているようです。
できるだけ早く元の暮らしに戻れるように祈りながら、しばらくは災害支援を続けていきたいと思います。　（AWCユースリーダー　原梓）

布団を運び入れる青年たち

みんなで泥かき

奨学金支援　（AIDS孤児里親基金）

今年のAIDS孤児里親基金は「希望の家」の子どもたちへの奨学金に活用させていただきました。

コロナウィルスの影響で世界中の経済が大きな影響を受けています。「希望の家」では、AIDS や麻薬で親を失い自分たちの進路も思うようにいかない子どもたちが共同生活を送っています。奨学金で大学に通い、夢の実現のために頑張り続ける若者を今後も応援していこうと思います。

サタバーン先生

バーンメーランカムスクールで長い間子どもたちの指導をして下さっていたサタバーン先生が9月30日に定年退職されました。子どもたちが体力を付け、自分に自信を持って生きていけるようにと専門の体育に力を入れる他、SUDOKU等の新しい学習も取り入れ、常に子どもたちの将来を思い尽力された先生です。

先生の熱心な指導の下に子どもたちが、様々なことに挑戦し、成長してきた姿を長年見てきましたので、感謝の思いで定年を心からお祝いしながらも、寂しさが募ります。

教育学部体育科を卒業後1983年から現在まで37年間一度も異動をせずメーランカムスクールで教師生活を全うしました。

当時は電気がなく、道路も悪く、サムン郡から12キロの悪路を通うのは大変でしたが、すぐに自然に囲まれたこの学校に愛着を持つようになりました。メーランカムスクールの子どもたちは、他の子どもたちに比べて様々な事において機会が少ないですが、無邪気で愛おしい存在です。 この学校で様々なことを教えましたが、多くは規律や健康、スポーツに焦点を当て、郡や県のレベルで良い成績を収めることができるようになるほど、訓練には力を入れました。この力が、子どもたちに軍や教師など就職のチャンスが広がると確信しています。

サタバーン・シースコンタミット

ご寄付・ご協力御礼　2019年12月13日～2020年12月12日　(敬称略・順不同)

【AIDS孤児里親基金】一柳芳子　増井俊樹　六波羅昭　幼き聖マリア修道会　高品都　鈴木八重子　五十嵐千恵子　川畑博敬　阿部潔　佐々木雅祥・律　田口美恵子　澤渡好子　髙橋清実　福島咲　山本博子　糠澤佐知子　鈴木佐智子　支援キルトの会ふーぷ

【おなかいっぱいプロジェクト】原輝美　早川すみえ　川口幸博　寺尾和子　朝廣玲子　高品都　尾形登志雄　吉岡啓子　阿部潔　佐藤志津子　大濱悦子　小島みゆき　大橋真理子　小林恵津子　福島咲　村田順子　山本久美子　丸山佳子　半田あや　福島生子　ガールスカウト山梨県連盟　佐々木雅祥・律　加藤弘子　支援キルトの会ふーぷ　落合貴美恵

【トイライブラリープロジェクト】日本おもちゃ図書館財団　佐々木雅祥・律　阿部潔　増井俊樹　マリ・クリスティーヌ

【AWC基金】磯山由理　竹田英一・啓子　酒井ユリ子　中村照代　原雄次郎　大澤喜一　佐伯昭夫　高嶋威男　田路あつ子　矢ヶ崎佐和子　鈴木保弘　川辺次郎　金子憲子　赤枝恒雄　ガールスカウト山梨県連盟　秋元千代子　佐藤真吾　佐藤利明　福島咲　八島恵理　黒須晴美　阿部潔　相楽裕子　山口正子　結城良亮　橋本美史　一柳とく江　太田有子　佐々木雅祥・律　籾山正行　増井俊樹　清水雅子　国際ソロプチミスト横浜西　安藤芳子

【おたがいさまプロジェクト】小島みゆき　五十嵐千恵子　佐々木雅祥・律　阿部潔　鈴木佐智子　支援キルトの会ふーぷ　原梓

【かいこプロジェクト】高品都　佐々木雅祥・律　尾崎知子　丸山佳子　阿部潔　増井俊樹

【災害復興支援】山本雅子　竹田英一・啓子　増井俊樹　マリ・クリスティーヌ　山本博子

【書き損じはがき・切手】齊藤徹　浦田知寿子　大濱悦子　金子憲子　竹田英一・啓子　鈴木保弘　池谷朋子　加川守男　岡部淑夫　加川守男　村田順子　川辺次郎　笠本雅己　巽司　五十嵐千恵子　高品都　髙安照代　嶋岡由吏　北村雅美　朝廣玲子　鈴木静香　宮崎恵子　佐藤志津子　堀江昭　村田順子　大槻裕美　大橋真理子　阿部潔　半田あや　馬渕信彦　安藤芳子　野尻悠紀子　池田碧　菊池幸江　増井俊樹　落合貴美恵　ガールスカウト山梨県連盟　横浜市民活動センター　近藤明子　北原弘文　大塚久仁子・南美　岡田靖子　今泉美智子　加藤弘子　上大迫仁美　浅野さとみ　山本博子　久保田（群馬県）佐々木雅祥・律　匿名希望　小嶋紘子　石井美枝子　須々木　山本久美子　田路あつ子　今井一彦・則余　多賀名和枝

※記入漏れ、間違いなどございましたら、お手数ですが事務局までご連絡ください。

ご寄付のお願い

アジアの女性と子どもネットワークの事業は皆様のご寄付で実施しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替　00200-0-4109
口座名：AWC

書き損じはがき　ご寄付のお願い

「おなかいっぱいプロジェクト」は、書き損じはがき2枚で3食分の給食食材費になります。
お手元の書き損じはがきや未使用切手をぜひAWC事務局までお送りください。子どもたちの健やかな成長のためにご協力をよろしくお願いします。

AWC事務局：〒231-0015　横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

発行元：アジアの女性と子どもネットワーク
〒231-0015　横浜市中区尾上町3-39
尾上町ビル9F YAAIC内
Tel/FAX 045-650-5430　E-mail ： awc@h6.dion.ne.jp
発行責任者：山本博子　編集担当：安藤芳子、原梓